

### 【平成 26 年度伊豆市一般会計歳入歳出決算認定】

歳入 決算額 178 億 5,929 万円 (前年比 3 億 5,512 万円の増)

歳出 決算額 164 億 9,731 万円 (前年比 1 億 9,258 万円の増)

歳出の増額のおもな要因

○光ファイバ網整備事業

○消費税引き上げによる臨時福祉給付金事業・子育て世帯臨時特例給付金事業

○新し尿処理施設建設事業

○被災農業者経営体支援事業

○恋人岬ボードウォーク改修工事

○修善寺グランド大規模工事など

◎繰越財源 3 億 6,466 万円を差し引くと・・・実質収支額 9 億 9,732 万円



新し尿処理施設



恋人岬ボードウォーク



修善寺グランド

◎平成 26 年度末一般会計・特別会計 基金残高・・・87 億 3,211 万円

◎平成 26 年度末一般会計・特別会計 地方債残高・・・235 億 6,645 万円

9 月議会

平成 26 年度伊豆市決算認定議会

小長谷順二通信

Vol. 12 号

小長谷順二 後援会事務所

伊豆市土肥 450-7

TEL/FAX 0558(98)0400

<http://konagayajunji.web.fc2.com/>

Email photo-ko@vcs.wbs.ne.jp

### 【平成 27 年度伊豆市一般会計補正予算(第 3 回)】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ 8 億 3,490 万円を追加し、歳入歳出の総額を 168 億 445 万円とする。

おもな事業として

○旧月ヶ瀬小学校体育館改修工事 (2,042 万円)

○旧大東小プール跡地原状回復工事 (1,224 万円)

○文教ガーデンシティ事業委託料 (8,215 万円)

○市内公的病院補助金 (1 億 6,685 万 9,000 円)

○虹の郷園内バス購入費 (972 万円)

○市道月ヶ瀬小学校線改良工事 (3,500 万円)

○伊豆市伊豆の国市廃棄物処理施設組合負担金 (1 億 389 万 5,000 円) など

### 【菊地 豊市長 行政報告】

#### 1.伊豆市都市計画の見直し

○平成 28 年度末を目途に、現在の田方広域都市計画区分を分割し、伊豆市を単独の都市計画区域とする。

○区域分、いわゆる線引きを廃止して、それに代わる新しい制度を導入する。

○平成 32 年度を目途に、天城湯ヶ島・中伊豆・土肥を含む伊豆市全体を対象に都市計画区域を拡大する。

#### 2.内陸フロンティア推進区域の指定

○大平地区では現在、「天城北道路大平 I C 周辺“森と農”活力創造推進区域」として農業振興拠点整備を実施。

○土地改良事業により、木材のストックヤードを活用した復旧対策物資供給拠点となる機能の確保を目指す。

#### 3.銃による有害鳥獣捕獲の再開

○昨年 7 月 20 日に発生した有害鳥獣捕獲中の誤射事故を受け、銃による捕獲作業を中止しておりましたが「安全対策研修会」、「実猟射撃研修会」、「救命救急講習会」の他、業務用デジタル無線機の貸与等従事者への安全対策の徹底と意志統一を図り、6 月 1 日から銃による有害鳥獣捕獲作業を実施しました。

#### 4.土肥地区の小中一貫校整備

○土肥地区のこれからの教育について、本年 5 月に地区懇談会、6 月には、小中一貫フォーラムを開催し、市民との意見交換を行うとともに、小中一貫教育の取り組みについて説明させていただきました。校地については、防災拠点やまちづくりとの関連性で第 2 次学校再編計画に示しているとおおり、現土肥中学校を改築し、平成 30 年 4 月の開校に向けて質の高い教育を目指し、その内容や環境を整えるべく準備を進めてまいります。

小長谷順二の一般質問

【1.地域おこし協力隊について】

質問

地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市部から人材を受け入れ、農林水産業や観光、自治体PRなどさまざまなまちづくり事業に関する支援や仕事を委嘱する制度で、平成21年から導入された総務省の取り組みです。現在、全国の多くの自治体でその制度を活用して地域おこしを行っています。伊豆市でも本年7月より募集を開始したので以下の3つについて伺います。

- ①地域おこし協力隊制度の位置付け
- ②応募状況
- ③就任してからの隊員のフォロー

答弁

①生活の拠点を伊豆市に移して、当方から地域おこし協力隊として委嘱して、地域の為に働いていただき、地域に溶け込み、なおかつ定住に結びつくような立ち位置をしっかりと定める。  
 ②農林業シティープロモーション・鹿革利用製品開発デザイナー・林業従事者の3名を募集しており現在2名の採用が決まっている。  
 ③国に於いても、隊員のフォローやスキルアップの為に全国サミットなどで研修を開催しています。伊豆市としても地域に根ざした活動をしていただくには、地域との連携は必要不可欠であり、地域と隊員とのパイプ役として市の担当者が取り組み、任期終了後の定住に向けた情報提供などを積極的に支援していきたい。

【2.地域づくり協議会設立支援と設立後の活動収入について】

質問

①地域づくり協議会の設立は、現在、準備会等の組織を設置し、その組織で協議を重ねて、協議会の設立を行っていますが、準備会の事務費、勉強会や情報提供等に要する経費の助成について伺います。

②「土肥・小土肥地域づくり協議会」では、産業振興事業のひとつに、「ふるさと納税」の推進を盛り込んでおります。

地域出身者に魅力のある返礼品の選定と感謝券などの発行。そして条例改正された「地域づくりの為の事業」に指定された寄附金は、どのような形で地域づくり協議会に還元されるのか伺います。

答弁

①準備会の助成については、以前より検討をしているところですが、準備会組織としての認定の仕方や、助成する時期、また結果的に設立しなかった場合はどうするのかなどの対応についての課題があると考えられるので、今後は他市町の事例なども参考にしていきたい。

②本年6月に特典の見直しを行い、品数を増やしてさらに魅力ある得点を揃えていきたい。ふるさと納税は寄附金といえども税金なので、換金性の高い感謝券については総務省から取り扱いの自粛が発令されており、現在は見送っている状況です。

地域づくりの為の事業として指定された寄附金は基金として残しておくので、交付金500万円の上限を超えた事業については、事業計画を立ていただければ、蓄積された基金から充当する事ができる。



**土肥・小土肥地域づくり協議会設立 みんなで作ろう！笑顔溢れる土肥の里 より住みやすい地域を目指して・・・**

平成27年9月3日(木)、伊豆市土肥支所で「土肥・小土肥地域づくり協議会設立総会」を開催しました。総会には、今まで設立に向けて準備してきた準備委員会の皆さんを始め、代議員(各区の区長、各種団体代表者)など約45名が出席。経過報告に続き、規約、役員、事業計画・予算を審議し、全会一致で承認されました。初代会長には設立準備委員長を務めてきました福室恵治さんが就任しました。福室会長は「皆さんと一っしょに、活動の輪を広げながら、地域が一体となった、住みよい地域づくりに取り組みましょう。」と抱負を語りました。

世界ジオパークに出張中の菊地市長に変わり、総会に出席した鈴木伸二副市長は「地域を元気にするには、住んで良かった、楽しいと思えるような地域づくりをすること、そして地域のみんなが参加し続けていくことが成功の鍵だと思います。」と祝辞を述べました。



福室恵治会長就任のあいさつ

小長谷順二

検索

ブログ更新中！！

小長谷順二 第11回 市政報告会開催

平成27年10月22日(木) PM7時

伊豆市土肥支所 4F会議室